



平成 16 年 7 月 30 日

## 業績予想の修正に関するお知らせ

上場会社名 プレシジョン・システム・サイエンス株式会社  
(コード番号 7707)  
本社所在地 千葉県松戸市上本郷 88  
問い合わせ先 取締役業務本部長兼経営企画部長 秋本 淳  
TEL 047-303-4800 URL <http://www.pss.co.jp>

最近の業績動向等を踏まえ、平成 16 年 5 月 7 日に公表した業績予想を下記のとおり修正いたします。

### 記

#### 1. 通期連結業績予想の修正 (平成 15 年 7 月 1 日 ~ 平成 16 年 6 月 30 日)

(単位: 百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	2,550	50	100	110
今回修正予想 (B)	2,506	126	174	181
増減額 (B - A)	44	76	74	71
増減率	1.7	-	-	-
(ご参考) 前期実績 平成 15 年 6 月期	2,433	66	60	56

#### 2. 通期単体業績予想の修正 (平成 15 年 7 月 1 日 ~ 平成 16 年 6 月 30 日)

(単位: 百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	2,300	10	50	155
今回修正予想 (B)	2,281	55	117	410
増減額 (B - A)	19	65	67	255
増減率	0.8	-	-	-
(ご参考) 前期実績 平成 15 年 6 月期	2,308	170	149	147

### 3. 連結業績予想の修正理由

#### 売上予想の修正理由

主力製品である DNA 自動抽出装置等は、OEM 先であるロシユグループを中心に順調な出荷となり、前回予想 1,700 百万円を上回る 1,723 百万円程度が見込まれます。しかしながら、同装置に使用されるプラスチック消耗品やメンテナンス用のスペアパーツ（交換部品）などその他の売上高において、前回予想 850 百万円に対して 783 百万円程度の着地見込みとなっております。

したがって、予想売上高は 2,506 百万円（前回予想 2,550 百万円）と 44 百万円の修正といたしました。

各製品区分別の売上高予想は下表のとおりであります。

	平成 15 年 6 月期(前期実績)		平成 16 年 6 月期(当期予想)		対前期比 増減率
	金額	構成比	金額	構成比	
	百万円	%	百万円	%	%
DNA 自動抽出装置等	1,611	66.2	1,723	68.8	7.0
その他理化学機器	144	5.9	146	5.8	1.8
その他製品	140	5.8	136	5.5	2.6
商品(プラスチック消耗品)	538	22.1	499	19.9	7.2
合計	2,433	100.0	2,506	100.0	3.0

プラスチック消耗品は、DNA 自動抽出装置等に使用される使い捨てタイプの消耗品が中心であり、装置の累積出荷台数に応じて販売拡大が見込める性質があるため、基本的には、順調な売上伸長が期待できるものと考えておりますが、当期に関しては、ロシユグループ、キアゲングループともに売上高が伸び悩んでおります。詳しい原因はわかりませんが、消耗品は毎月納品しており順調に出荷されていること、および装置についても累計出荷台数は順調に積み上げていることから、今後の推移については特段の心配はないものと考えております。

#### 利益予想の修正理由

売上総利益に関しましては 952 百万円（前回予想 970 百万円）と 18 百万円の修正といたしました。売上高の下方修正に伴うものであります。

販売管理費に関しましては、開発費が 292 百万円（前回予想 260 百万円）と 32 百万円の増加となった他、諸経費も予想を上回る推移となったことから、1,078 百万円（前回予想 1,020 百万円）と 58 百万円の修正といたしました。

したがって、予想営業利益は 126 百万円（前回予想 50 百万円）と 76 百万円の修正といたしました。

通期予想を四半期毎の業績推移にまとめますと下表のとおりであります。

平成 16 年 6 月 期	第 1 四半期 実績	第 2 四半期 実績	第 3 四半期 実績	第 4 四半期 予想	合 計
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円
売 上 高	512	407	553	1,032	2,506
売 上 総 利 益	216	143	208	384	952
営 業 利 益	44	131	32	81	126
経 常 利 益	69	141	38	74	174
当 期 純 利 益	74	140	40	74	181

四半期毎の業績推移にはばらつきがあります。ほぼ毎月出荷される量産機種に加えてスポット販売がどの程度上乘せされるかによって、月毎の売上高が変動します。量産機種に関しても、例年、夏場の出荷は低調となる傾向があり、第 1 四半期の業績は厳しいものがあります。今期に限って言えば、第 2 四半期において、キアゲングループ向けの量産機種が出荷調整となったことから、第 2 四半期が最も厳しい状況となりました。

主力 OEM 先は 12 月決算の会社であり、新年度となる 1 月以降に出荷が多くなる傾向があること、また、国内の装置販売に関しても、3 月までを目途とした予算で活動している研究機関、企業が多いことから、3 月前後に販売が集中する傾向があります。こういったことから、装置販売に関しては、上半期よりも下半期に売上高が大きくなる傾向があります。

#### 4. 単体業績予想の修正理由

連結業績予想の修正理由に同じであります。

個別決算における固有の事情としては、当社の 100% 米国子会社である PSS Bio Instruments, Inc. (PBI 社) と Bio-Strand, Inc. (BSI 社) の合併に伴い、当社保有の PBI 社株式の再評価を実施したところ、特別損失に評価損として 291 百万円 (前回予想 100 百万円) を計上する見通しとなりました。前回予想では BSI 社の株式評価損のみを想定していましたが、PBI 社株式自体にも評価損が発生いたしましたので、合わせて計上することとなりました。同費用は個別決算において特別損失に計上予定であり、当期純利益 410 百万円 (前回予想 155 百万円) と 255 百万円の修正となりました。なお、同特別損失に関しては、連結決算上は既に反映されておりますので、影響はありません。

以 上